



二期目に入った胡錦濤政権

環日本海経済交流センター長 藤野 文晤

中国共産党の第17回大会が10月21日終わった。国家の新指導部を選び、今後5年間の国家の政権運営方針を策定、更に共産党規約の改訂を行うという非常に重要な大会であった。中国は今、更なる発展を目指すため、越えねばならぬ数多くのハードルを前にして大変重要な段階にある。鄧小平氏の改革開放政策は中国の発展を確実に一つの大きな段階へと導いた。都市部の発展はすさまじく、GDPは世界の第四位へ、貿易は第三位へ、外貨準備高はトップに踊り出た。2、30年前には誰も予測出来なかったことである。一方、市場経済の急速な展開により、国家の発展に大きな不均衡が発生し、色々な格差が顕在化して来た。極端な貧富の差、都市と農村の格差、又、工業の発展に伴うエネルギーの濫用、環境の悪化、政治的には共産党員、官僚の不正腐敗の横行など巨大な大国の発展が抱えている宿命的とも云える矛盾が表面化し、社会の安定を損いかねない事態の発生が大きく懸念されるに至っている。今回の党大会はそのような現在の中国が抱えている課題にどの様に対処するかを問う極めて重要な大会となった。

胡錦濤氏は今後の国家運営の基本理念を「科学的発展観」と定義し共産党規約に盛り込んだ。科学的発展観とは持続可能な安定発展を目指すという意味で、「以人為本」（人間を基本とする）、社会全体を均衡の取れた発展に導くという考え方である。鄧小平氏の改革開放政策は豊かになれるところから先ず発展させようという理論であり、江沢民氏も基本的にその路線を踏襲し、中国を一大発展に導いたが、前述の様々な矛盾の顕在化により、胡錦濤政権の第二期目はこの基本路線を和諧社会の実現、安定成長へと修正することとなった。特に農村の建設に注力することを鮮明に打出し、今後西部、東北部等が注目される。又、“科学的発展観”を“毛沢東思想”、“鄧小平理論”、“三つの代表”に続く第四世代の理念として位置付けたことに注目したい。

経済的には2020年に於ける一人当たりのGDPを2000年の4倍にするとの目標を明確に打出した。中国の21世紀前半の発展目標は三つに区分されて

いる。第一期の2000年から2010年までに倍増させ（すでに達成）第二期が2020年までで更に倍増、第三期が2050年まででその時期には中国は世界の先端に立つ民主的、経済的に繁栄した国家を目指している。今回特に一人当たりのGDPの4倍増を唱ったことは格差の是正に取組む強い意志を示したものと云えよう。エネルギー資源の節約と生態環境保護の強化も強く打出した。13億人の大国の急速な工業化の進展はとめどないエネルギーの消費につながるものであり、その節約は喫緊の課題である。又エネルギーの多消費は環境の汚染にもつながる問題であり、来年の五輪開催をひかえて環境の改善に全力を傾注し始めた。

政治的には中国共産党の基盤の強化ということだろう。政治体制改革はいずれ越えねばならぬ最後で最大のハードルだが、当面党内民主化を漸進的に進める方向を打出した。又党員、官僚、特に地方政府の不正腐敗防止に強い意欲を示している。又、次代の指導者の育成を目指し、若返りがはかられた。特に中国共産主義青年団出身の人々や、過去技術系が中心だったが多くの文化系の指導者が選出されたことも注目される。政治局常務委員は一挙の若返りではなく経験者とのバランスのとれた布陣となった。中国共産党は単一の人物のカリスマ的指導体制から徐々に脱皮し、集団指導体制へと移行しつつあることを評価したい。又地方をとりしきって来た指導者を抜擢し始めたことは和諧社会建設、地方重視の姿勢を明確に打出したものであろう。

外交面では、台湾との平和的統合を強く打出したことに注目する必要がある。

日中関係は福田内閣の出現により、更に好転するだろう。安倍前首相が開いた道を福田首相は確実に前進させるだろう。党大会が終了し、第五世代の若手指導者が誕生したこともあり、中国は福田首相の年内訪中を望んでいる様だ。その後、来年桜の季節に胡錦濤主席の訪日が実現すれば日中関係は大きく前進するだろう。その日の来ることを強く望みたい。

(以上)